

南アルプスの高山帯で分化しました。

東亜と北米との共通種については、ベーリング海峡が非常に重要な役割を果たしました。多くの東亜の植物はベーリング海峡を渡って北米大陸へと分布しました。中には、北米大陸まで行きつけず、アリューシャン列島で分布が止ったものもあります。

次に、日本の高山上での分化が起りました。前述のヒナリンドウは、南アルプスや日光の女峰山では、コヒナリンドウという亜種になりました。また、大陸のゲンチアネラから分化したオノエリンドウは、北海道の一部では萼片の切れ込みの違うユウバリンドウに分化しました。ハヤチネウス

ユキソウは、北海道では、オオヒラウスユキソウに分化しました。このようにして、日本の現在の高山植物相が成立したと考えられます。

完

注1) ここに書いた植物名は種を単位とし、その中に亜種、変種、品種をすべて含めて考えています。したがって、ユウバリンドウにはオノエリンドウ(亜種)も含まれ、ウスユキトウヒレンには、ユキバトウヒレン(品種)、ユキバタカネキタアザミ(品種)などを含んでいます。

(信州大学教養部・理学博士)

北海道の高山植物

顧問 野坂志朗

1. はじめに

北海道の高山帯に産する維管束植物(シダ植物と種子植物)の種類は、昭和9年~13年に館脇操博士により436種76変種28品種が記録され、近年では昭和49~53年に豊国秀夫博士により456種24亜種75変種2亜変種88品種が記録されている。これらの中には、ダケカンバのように、亜高山帯の代表樹種で、針広混交林帯上部から高山帯下部にかけて広く見られるものなど、亜高山帯以下にもしばしば見られるものが含まれる。高山帯に生育の本拠をもつと考

えられるものに限って見ると、270種前後となるであろう。それらの270種あまりの植物について、北海道固有(特産)のものを中心に、分類と分布の大要を紹介することとする。

2. 北海道産高山植物の分類

種の範囲は、学者により違いがある。例えば、アポイ岳に産するヒダカソウは、日本アルプス北岳などに産するキタダケソウや北朝鮮高山に産するウメザキサバノオに極めて近い種であり、これら三者を同一種と見たり、同一種内の変種と見たり、そ

れぞれ
て、一
乱を避
井次三
50年)
お、大
ないの
原色日
じであ
がある
以下、
◎印は
種、△
南には
は主要
として
pecies
品種(

シダ科
※ヒカ
カネヒ
ラ、コ
び、葉
ギラン、
sv. と
：コケ
Botryc
ハナワ
帯~亜
ラリア、
南米パ
※イノ
togran

それぞれ異なった種であるとする見解があつて、一様ではない。ここでは、なるべく混乱を避けるため、種の区分は、主として大井次三郎博士の改訂新版日本植物誌（昭和50年）に準拠して整理することとする。なお、大井博士は、「亜種」のランクを設けないので、北村四郎博士らによる保育社の原色日本植物図鑑とは、種の区分はほぼ同じであるが、種内の小区分については差異がある。

以下、科ごとに主な植物を紹介するが、◎印は北海道固有種、○印は北海道固有変種、△印は北海道固有ではないが、本州以南には産しないものを示し、()内の山岳名は主要産地を示すものである。また、参考として掲げた学名で、ssp. は亜種 (subspecies)、v. は変種 (varietas)、f. は品種 (forma) を示す。

シダ植物門……………5科12種あり。

※ヒカゲノカズラ……Lycopodium 属：タカネヒカゲノカズラ、チシマヒカゲノカズラ、コスギラン（やゝ大形で高さ15cmに及び、葉が開出～反曲するものをエゾノコスギラン、*L. selago* L. v. *patens* Desv. と称し夕張岳の産）。*Selaginella* 属：コケスギラン、エゾヒメクラマゴケ。

Botrychium 属：ミヤマハナワラビ、ヒメハナワラビ (*B. lunaria* L., 北半球温帯～亜寒帯に広く分布するほか、オーストラリア、ニュージーランド、タスマニア、南米パタゴニアにも分布する)。

※イノモトソウ科（ワラビ科）……*Cryptogramma* 属：リシリシノブ (*C. Cri-*

spa R. Br., ユーラシア大陸亜寒帯～寒帯・高山に分布し、わが国では、北海道以外に岩手県早池峯山等に見られる。

※オシダ科……*Athyrium* 属：オクヤマワラビ、*Gymnocarpium* 属：イワウサギシダ、*Woodsia* 属：トガクシデンダ、△ミヤマイワデンダ (*W. ilvensis* R. Br., リシリデンダ。北半球温帯北部に広く分布するが、わが国では本州以南の確実な産地は知られていない)。

以上のほかに、シダ植物で、亜高山帯に生じ高山帯下部にもよく見られるものに、ミヤマメシダ、ミヤマヘビノネゴザ、オオバショリマ、オクヤマシダ、カラクサイノデ、ヒメクラマゴケ、チシマミズニラ(稀)、アスヒカズラ、スギカズラ、ヒロハハナヤスリ、ミヤマワラビ、ウサギシダ、シラネワラビ、チャセンシダ、アオチャセンシダ等がある。

裸子植物門……2科3種。固有種なし。

※マツ科……*Pinus* 属：ハイマツ (*P. pumila* Reg., わが国高山帯の代表樹種。本州産のものは、葉が3～5cm長、葉の樹脂溝が2または1個であるのに対し、北海道・樺太・千島のものは、葉が6～10cm長で樹脂溝が3個である等の差異から、変種エゾハイマツ v. *yezoalpina* Isii et Kusaka とする意見もある)。

※ヒノキ科……*Juniperus* 属：リシリビャクシン (*J. communis* L. v. *montana* Ait., 葉が著しく内曲するのがふつうであるが、葉の湾曲のゆるやかなものは、しばしば別変種ミヤマネズ v. *nipper-*

onica Wils. として区別される。ただし、この区別については、両者を別種とする見解等、多様の意見がある)、ミヤマビャクシン(ミヤマハイビャクシン。J. chinensis L. v. sargentii Henry, 盆栽樹種として著名であるが、海岸に生じて樹冠が帯白青緑色、鱗片葉の合わせ目附近に100~150倍で気孔群が見えるものを品種ハマハイビャクシン f. glauca Kusaka とすることもがあるが、イブキとの関係をはじめ、多くの意見がある)。

被子植物門双子葉植物綱離弁花亜綱

※ヤナギ科……Salix属：7種あり、本州との共通種はミネヤナギのみである。◎エゾマメヤナギ(S. pauciflora Koidz., は地表に接するほどの低木で、小形の倒卵形~円形の葉をもち、基準形の他に葉がほとんど円形のマルバエゾマメヤナギ v. cyclophylla Kimura, この形のもので子房に絹毛のあるケミノエゾマメヤナギ f. hebecarpa Kimura, 葉の幅が狭く皮針形のをナガバエゾマメヤナギ v. stenophylla Kimura の3形が区別される。アジア東北部のS. nummularia Anders. に近縁で、その亜種S. nummularia Anders. ssp. pauciflora Kimura とされることもある。大雪山固有種)、◎ミヤマヤチヤナギ(S. paludicola Koidz., エゾマメヤナギに似て、全株無毛、葉柄が短く、2~5mmしかない。大雪山固有種)、△エゾミヤマヤナギ(S. hidewoi Koidz., はミヤマヤナギに似るが、大形で時に高さ80cmに及び、子房に黄褐色毛が密生する。

南千島、大雪山、日高山脈)、◎オオミヤマヤチヤナギ(S. pseudo-paludicola Kimura, ミヤマヤチヤナギとエゾミヤマヤナギとの雑種。大雪山固有種)、◎マルバヤナギ(S. yezoalpina Koidz., 長さ2~4.5cm、幅1~3.5cmの楕円~円形の葉をつける。幅5mm程度の小形長楕円形の葉のホソマルバヤナギ f. stenophylla Kimura と長さ10cm、幅6.5cmに及ぶ大形の葉のオオマルバヤナギ f. grandifolia Kimura の2品種の他に、子房に絹毛があり、葉の上面がやゝ光沢を帯び網状脈下面が隆起する変種イヌマルバヤナギ v. neoreticulata Kimura がある。北海道固有)、◎ヒダカミネヤナギ(S. hidakamontana Hara, 葉脈に沿って葉上面凹入、下面著しく隆起する。日高山脈固有種)。
※カバノキ科……Alnus属：ミヤマハンノキ、Betula属：◎アポイカンバ(B. apoiensis Nakai, 葉脚が心形のアポイ岳固有種)。
※タデ科……Rumex：タカネスイバ、Oxyria属：ジンヨウスイバ(マルバギシギシ)、Polygonum属：イブキトラノオ(葉の下面が無毛のものがふつうで、細毛のあるものをウラゲイブキトラノオ、葉の下面葉脈が隆起するものをアミメイブキトラノオとして区別することもある)、ムカゴトラノオ(コモチトラノオ)、オヤマソバ(日本固有種で、北海道ではアポイ岳を中心とする南日高山岳に産する)、ウラジロタデ(大雪山等に見られる茎が平滑で葉の下の毛が少いものをタカネウラジロイタドリとして区別することもあり、この形は、本

州や千島のオンタデに近い)、△ヒメイワタデ (*P. ajanense* Grig, 本州には見られず、毛の状態でチシマヒメイワタデ、全株無毛のコイワタデ、葉の両面に毛を密布するヒメイワタデ、毛の少いホソバオンタデ等の諸形に区分されることがある)。

これ等の他に、大雪山や知床の山岳に *Rumex* 属のカラフトダイオウが知られている。

※ナデシコ科……固有種2種を含む7属13種がある。*Sagina* 属:チシマツメクサ、*Minuartia* 属:コバノツメクサ(ホソバツメクサ)、△エゾミヤマツメクサ(本州のミヤマツメクサに比して葉縁に長毛がある変種)、△エゾタカネツメクサ(本州のタカネツメクサは種子の周縁に突起がなく平滑な変種)、*Arenaria* 属:カトウハコベ (*A. katoana* Makino, 本州では至仏山、谷川岳、早池峯山など、北海道ではトッタベツ岳、チロロ岳、夕張岳、キリギシ岳、富良野西岳等に産し、アポイ岳には狭葉形の変種アポイツメクサ *v. lanceolata* Tatew, がある。夕張岳やトッタベツ岳には、基準形とアポイツメクサとの中間形のを産する)、メアカンフスマ(チョウカイフスマ。雌阿寒岳、知床高山)、*Stellaria* 属:○オオイワツメクサ (*S. nipponica* Ohwi *v. yezoensis* Hara, 本州のイワツメクサ *S. nipponica* Ohwi の、萼片3脈明瞭で種子縁辺に乳頭状突起のある夕張・日高両山脈に固有の変種)、◎エゾイワツメクサ (*S. pterosperma* Ohwi, 種子に幅0.3~0.4mmの翼がある大雪山固有種)、シコタンハコベ、カンチ

ヤチハコベ、*Dianthus* 属:タカネナデシコ、*Melandrium* 属:◎カムイビランジ

(*M. hidaka-alpinum* Miyabe et Tatewaki, 日高山脈中部カムイエクウチカウシ山より記載され、日高山脈中~北部に産する日高山脈固有種。本州のタカネビランジに似るが、根出葉があり、萼筒が太いことで区別される)、*Silene* 属:△スガラビランジ (*S. stenophylla* Ledeb., アムール~シベリア東部~オホーツク沿岸~樺太に分布する。1973年丹一夫氏によりニペソツ山で採集され、豊国博士によって確認された。ニペソツ山がわが国唯一の産地)。これらの他に、*Silene* 属でカラフトマンテマ (*S. repens* Patr., アポイマンテマ、チシママンテマを含む) がしばしば高山帯に出現する。

※ウマノアシガタ科(キンポウゲ科)……固有種5種を含む7属11種がある。*Pulsatilla* 属:ツクモグサ、*Anemone* 属:ハクサンイチゲ、*Ranunculus* 属:ミヤマキンポウゲ、*Callianthemum* 属:◎ヒダカソウ (*C. miyabeanum* Tatewaki, アポイ岳固有種)、*Aquilegia* 属:ミヤマオダマキ、*Aconitum* 属:タイセツトリカブト (*A. yamazakii* Tamura et Namba, 大雪山)、△リシリブシ (*A. sachalinense* Fr. Schm. *v. compactum* Miy. et Tatew., 利尻岳、礼文島)、◎エゾホソバトリカブト (*A. yuparense* Takeda, 道内所々の高山、ユウバリウズ)、◎ヒダカトリカブト (*A. apoiense* Nakai, 基準産地アポイ岳。日高山脈固有)。タイセツトリカブト、エゾホソバトリカブ

ト、ヒダカトリカブトの3種は互いに近縁で、前2者を同一種とする見解もある。

Trollius 属：◎ポタンザキキンバイソウ (T. pulcher Makino, 利尻岳。ポタンキンバイ)、チシマノキンバイソウ (T. riederianus Fisch. et Mey., この形は本州に見られない。変種としてシナノキンバイ v. japonicus Ohwi, ○ヒダカキンバイソウ v. citrinus Toyokuni 及び○ピパイロキンバイソウ v. nishidae Toy. が区別され、後二者は、宮部金吾博士により独立種として記載された日高山脈固有の変種である)。これ等の他に、ヒメイチゲ、エゾイチゲ、ミツバオウレンなど、亜高山帯以下にも多産するものがある。

※ケシ科……3属3種(固有種2種)あり。

Corydalis 属：◎エゾオオケマン (C. curvicalcarata Miyabe et Kudo, 富良野西岳)、Papaver 属：◎リシリヒナゲシ (P. fauriei Fedde, 利尻岳)、Dianthus 属：コマクサ。

※アブラナ科……6属9種(固有種2種)

あり。Macropodium 属：ハクセンナズナ、Thlaspi 属：◎タカネグンバイ (T. japonicum Boiss., 北日高、夕張岳、礼文島等に産し、定山溪天狗岳には品種テンググンバイ f. sagittatum Toyokuni がある)、Cardamine 属：ミヤマタネツケバナ、Barbarea 属：ヤマガラシ (ミヤマガラシ)、Draba 属：ナンブイヌスズナ (D. japonica Max., 岩手県早池峯山が基準産地。夕張岳とトッタベツ岳に見られる典型的超塩基性岩特性植物で、夕張岳のものはユウバリナズナ D. yezoensis

Nakai = D. japonica Max. v. yezoensis Tatewaki として区別されたこともある)、◎シリベシナズナ (D. igarashii S. Watanabe, 大平山、キリギシ岳。石灰岩特生植物と考えられる)、○リシリナズナ (D. ussuriensis Busch v. oblongo-lanecolata Tatew., ウスリー～樺太のオクエゾナズナ D. ussuriensis に極めて近いが、果実(角)がやゝ長く、ほとんどねじれないもの。利尻岳)、Arabis 属：ミヤマハタザオ。

これ等の他に、エゾイワハタザオや、ソウウンナズナ(層雲峡、平山)などを挙げることもできる。

※ベンケイソウ科……Sedum 属：イワベンケイ (S. rosea Scop.)、アオイワベンケイ (S. ishidae Miyabe et kudo, ホソバイワベンケイ)。これ等の他に、ヒダカミセバヤや○エゾミセバヤ、○ヒメミセバヤなどが高山帯にも出現する。

※ユキノシタ科……固有種2種を含む3属8種がある。Boykinia 属：アラシグサ(日本固有種)、Parnassia 属：コウメバチソウ、Saxifraga 属：△チシマイワブキ (S. reniformis Ohwi, 大雪山、利尻岳)、△クモマユキノシタ (S. laciniata Nakai et Takeda, 大雪山、夕張岳、チロロ岳、樺太、北朝鮮高山に分布する。地上茎が伸びて細い地下茎を伸ばす形のものを変種ツルクモマグサ v. takedana Hara と称し、大雪山の産。この形と基準形との中間形が大雪山や夕張岳で見られることから、品種 f. takedana として扱う豊国博士の見解に筆者は賛成である)、

◎エゾ
abe e
あり。
形で葉
の毛が
変種あ
マクモ
チシマ
に達し
のもの
は葉の
マグサ
◎ユウ
Nosaka
爪あり。
これ等
ソウ、
が高山
※バラ
属：マル
Pall.,
aemili
シケマル
yokuni
olata
属：○ア
icus F.
アポイ
マは周
分布す
キンバイ
千島)、
礼文島、
岳。夕張

◎エゾノクモマグサ (*S. nishidae* Miyabe et kudo, 葉の先端3裂し縁辺に腺毛あり。夕張岳固有種)、シコタンソウ(小形で葉が細く、先端の棘が著しく、葉縁辺の毛が目立つものをヒメクモマグサとして変種あるいは品種の区別をする)、△チシマクモマグサ (*S. merkii* Fisch., ヒメチシマクモマグサ。大雪山には花茎が15cmに達して分枝し、葉の先端が3裂して本州のものに近い形のものもある。本州のものは葉の先端3裂、花茎が分枝する変種クモマグサ v. *idsuroei* Fr. et Sav. である)、

◎ユウバリクモマグサ (*S. yuparensis* Nosaka, 葉の先端3歯、花卉に1mm弱の爪あり。夕張岳固有種)。

これ等の他に、ウメバチソウ、ダイモンジソウ、エゾクロクモソウ、ヤマハナソウ等が高山帯にも見られる。

※バラ科……10属17種がある。Spiraea 属：マルバシモツケ (*S. betulifolia* Pall., 高山帯にはエゾマルバシモツケ v. *aemiliana* Koidz. が多く、固有変種○マシケマルバシモツケ v. *yoshitakae* Toyokuni, ○チシオシモツケ v. *oblanceolata* Tatew. などがある)、Aruncus 属：○アポイヤマブキショウマ (*A. dioicus* Fern. v. *subrotundatus* Hara, アポイ岳固有変種。基準種ヤマブキショウマは周北分布を示し、わが国では四国まで分布する)、Potentilla 属：△メアカンキンバイ (*P. miyabei* Makino, 北海道、千島)、ウラジロキンバイ (*P. nivea* L., 礼文島、夕張岳、キリギシ岳、定山溪天狗岳。夕張岳と定山溪天狗岳のものは変種エ

ゾウラジロキンバイとして区別されたこともある)、ミヤマキンバイ (*P. matsu-murae* Wolf, 葉裂片の形と毛の状態から ○ユウバリキンバイ v. *yuparensis* Kudo, 夕張岳・大雪山、○アポイキンバイ v. *glabrescens* Toyokuni, アポイ岳などの区別がある)、キンロバイ、Sibbaldia 属：タテヤマキンバイ (大雪山熊が岳)、Dryas 属：チョウノスケソウ、Geum 属：チングルマ (*G. pentapetalum* Makino, 夕張岳産の大形で葉に重鋸歯のあるものに変種ユウバリチングルマ v. *serrata* Koidz. の名が与えられたこともあるが、区別する必要はない)、ミヤマダイコンソウ、Sanguisorba 属：タカネトウウチソウ (*S. stipulata* Rafin., 基準形に似るが萼が有毛のものをケトウウチソウ、苞が長く10mmに及ぶもののうち萼が無毛のものをフデトウウチソウ、萼が有毛のものをリシルトウウチソウとして区別することもある)、○エゾトウウチソウ (*S. hakusanensis* Makino v. *japonensis* Ohwi, 本州のカライトソウの変種とされ、日高山脈固有)、△チシマワレモコウ (*S. tenuifolia* Fisch. v. *grandiflora* Max., 千島、樺太に分布し、夕張・日高両山脈の産)、Alchemilla 属：ハゴロモグサ、Rosa 属：オオタカネイバラ、Sorbus 属：タカネナナカマド (小葉や果実が小形で若葉に褐毛を生じるものを変種ミヤマナナカマドとして区別する)、ウラジロナナカマド。これ等の他に、Rubus 属でコガネイチゴ、ヒメゴヨウイチゴ、ベニバナイチゴ (積丹岳)、Prunus 属でタカネザクラ (ミネザ

クラ)とその変種チシマザクラ、*Fragaria*属でノウゴウイチゴ等が高山帯にも多い。

※マメ科……北海道固有種5種を含む4属12種がある。*Hedysarum*属：イワオオギ、カラフトゲンゲ(さやが有毛のものを変種チシマゲンゲとする)、*Astragalus*属：ムラサキモメンヅル、◎カリバオオギ(*A. yamamotoi* Miy. et Tatew., 狩場山固有種)、リシリオオギ、タイツリオオギ、△エゾモメンヅル(*A. japonicus* Boiss., 南千島、斜里岳等)、*Oxytropis*属：◎ヒダカゲンゲ(*O. kudoana* Miy. et Tatew., 千島、カムチャッカのオカダゲンゲに近い。日高山脈固有種)、◎ヒダカミヤマノエンドウ(*O. hidaka-montana* M. et T., 樺太と千島のコダマソウに近い。日高山脈固有種)、◎マシケゲンゲ(*O. shokanbetsuensis* M. et T., コダマソウに近い暑寒別岳固有種)、◎リシリゲンゲ(*O. rishiriensis* Matsum., 利尻岳、夕張岳)、○エゾオヤマノエンドウ(*O. japonica* Max. v. *sericea* Koidz., 本州の基準種オヤマノエンドウに比し開出白毛密生する大雪山固有変種)。ヒダカミヤマノエンドウについては、ヒダカゲンゲの変種とする意見や、マシケゲンゲとともにコダマソウと同一種に含める意見もある。なお*Oxytropis*属には、礼文島にレブンソウ(*O. megalantha* Boiss.)がある。

※フウロソウ科……*Geranium*属：チシマフウロ(花色の極めて淡いものをトカチフウロという)。しばしばタカネグンナイフウロが高山帯に見られる。

※クロウメモドキ科……*Rhamnus*属：◎ミヤマハンモドキ(*R. ishidae* Miyabe et Kudo, 北米の*R. alnifolia*に近く、概形は小形のミヤマハンノキに似る。夕張・日高両山脈固有種)。

※オトギリソウ科……固有種2種を含む4種あり。*Hypericum*属：○フラノオトギリ(*H. erectum* Thumb. v. *brevistylum* Inagaki et Toyokuni, オトギリソウの花柱の短い変種。富良野岳、夕張岳等)、ハイオトギリ(*H. kamtschaticum* Ledeb., 変化はなはだ多く、種々の変種、品種等に区分される。花柱が子房の1.7倍長のものを○ヒダカオトギリ v. *hidakense* Y. Kimura と称し、日高山脈、夕張岳等に産する)、◎シラトリオトギリ(*H. tatewakii* S. Watanabe, 雨竜の白鳥山から記載され、葉、萼片、花卉の明点や黒点等の分布状況によりメイテンシラトリオトギリ、コクテンシラトリオトギリ等の区別がある)、◎マシケオトギリ(*H. yamamotoi* Miy. et Y. Kim., 暑寒別岳の山の神登山口附近で記録されたが、高山帯には丈低く花枝を出さず、葉に黒点と明点をもつ変種ミネオトギリ v. *montanum* Y. Kim. があり、これは道南の大平山、狩場山、大千軒岳等にも知られている。花卉が小さく長さ10mm以下で葉が黒点のみの変種キタミオトギリ v. *kitamense* Y. Kim. は北見ホロヌプリ、ピンネシリ山等の産)。これ等の他に、幌泉～幌満～アポイ岳にサマニオトギリ(*H. samaniense* Miy. et Y. Kim.)、大雪山高原温泉附近にタイセツヒナオトギリ(*H.*

yojiro
があり、
※スミ
Viola
ミレ、
iifoli
ミレ(
V. hi
有変種)
ana M
◎シレ
kai、夕
弁は基部
知床硫黄
(オク
これ等
vistip
るケエ
ヌタチ
ミレ等
れる。
※アカ
アカバ
品種エン
カバナ
バナあり
※セリ
6属9種
ンサイニ
○エゾ
Polj.
ガネサイ
片及び小
及び周辺

属：◎
iyabe
近く、
夕張・
む4種
トギリ
evisty-
トギリ
夕張岳
hatic-
種々の
子房の
v. hi-
高山脈
トギリ
雨竜の
弁の明
ンシラ
トギリ
リ(H.
暑寒別
が、高
黒点と
onta-
南の大
れてい
が黒点
amen-
ピンネ
泉〜幌
。sa-
大雪山
リ(H.

yojiroanum Tatew. et Ko. Ito)
があり、両種とも北海道固有種。
※スミレ科……固有種3種を含む7種あり。
Viola属：キバナノコマノツメ、タカネス
ミレ、◎ジンヨウキスミレ (V. alliar-
iifolia Nakai, 大雪山)、○エゾキス
ミレ (V. brevistipulata W. Beck.
V. hidakana S. Watanabe, 日高山脈固
有変種)、◎シソバスミレ (V. yubar-
iana Nakai, シソバキスミレ、夕張岳)、
◎シレトコスミレ (V. kitamiana Na-
kai, タカネスミレに似るが葉は鋭頭、花
弁は基部黄色で他は白色、柱頭は2裂せず。
知床硫黄山、羅臼岳?)、タニマスミレ
(オクヤマスミレ)。

これ等の他にオオバキスミレ (V. bre-
vistipulata) の変種または亜種とされ
るケエゾキスミレやフギレキスミレ、アイ
スタチツボスミレの変種アポイタチツボス
ミレ等が亜高山帯から高山帯にかけて見ら
れる。

※アカバナ科……Epilobium 属：ミヤマ
アカバナ、アシボソアカバナ (大雪山固有
品種エゾミヤマアカバナあり)、ホソバア
カバナ (大雪山固有品種ミヤマヤナギア
カバナあり)、シロウマアカバナ。

※セリ科……固有種1、固有変種2を含む
6属9種がある。Bupleurum 属：△レブ
ンサイコ (B. triradiatum Adams)、
○エゾサイコ (B. nipponicum Koso-
Polj. v. yesoense Hara, ホソバノコ
ガネサイコ。本州のハクサンサイコの総苞
片及び小総苞片の先端が鋭尖するアポイ岳
及び周辺山岳の固有変種)、Tilingia 属

；チシマニンジン (シラネニンジン。アポ
イ岳には葉裂片の極端に細い品種ヒメシラ
ネニンジンがある)、ミヤマウイキョウ、
Coelopleurum 属：△エゾヤマゼンコ
(エゾノシシウドの高山形で、日高山脈、
夕張岳など)、ミヤマゼンコ、Coniosel-
inum 属：ミヤマセンキュウ、Angelica
属：◎ホソバトウキ (A. stenoloba Ki-
tagawa, 夕張・日高両山脈固有種)、Pe-
ucedanum 属：ハクサンボウフウ (アポイ
岳には小葉が広線形に著しく分裂する変種
○エゾノハクサンボウフウ P. multivit-
tatum Max. v. linearilobum Tate-
w. がある)。これ等の他に、ホタルサイ
コやイブキゼリが見られることもある。

なお、ミズキ科のゴゼンタチバナは、亜
高山帯から高山帯にかけて広く見られ、道
東山岳にはエゾゴゼンタチバナが見られる。

被子植物門双子葉植物綱合弁花亜綱

※イワウメ科……Diapensia 属：イワウメ、
Shortia 属：コイワカガミ。

※イチヤクソウ科……Pyrola 属：エゾイ
チヤクソウ (カラフトイチヤクソウ)。コ
バノイチヤクソウやコイチヤクソウ (ヤマ
イチヤクソウ) もしばしば高山帯に見られ
る。

※ツツジ科 (ジャクナゲ科) ……12属19種
があるが固有種はない。Tripetaleia 属
：ミヤマホツツジ、Ledum 属：△ヒメイ
ソツツジ (L. palustre L. v. decu-
mbens Ait., 大雪山)、Rhododendron
属：キバナジャクナゲ、エゾツツジ (R.
camtschaticum Pall., 白花品シロバ

ナエゾツツジもある。若枝と葉両面に褐毛密生するものを△アラゲエゾツツジ v.

barbatum Tatew. として区別する)、
Bryanthus 属：チシマツガザクラ、Phyllodoce 属：アオノツガザクラ (エゾノツガザクラとの雑種△ニシキツガザクラが変種として区別される)、エゾノツガザクラ (花の色がやゝうすく、花冠表面無毛のものをコエゾツガザクラ、花冠が扁平に近い形のをユウバリツガザクラとする)、

○ナガバツガザクラ (P. nipponica Makino v. oblongo-ovata Toyokuni, 花冠が帯緑白色の品種カオルツガザクラ f. viridiflora Toyokuni が夕張山脈等に知られている)、Loiselleuria 属：ミネズオウ、Cassiope 属：イワヒゲ、Arctericia 属：コメバツガザクラ、Harimannella 属：ジムカデ、Gaultheria 属：アカモノ (イワハゼ)、シラタマノキ、Arctous 属：ウラシマツツジ、Vaccinium 属：コケモモ、クロウスゴ (葉が円形に近く、わずかに鋸歯をもつものを変種○エゾクロウスゴとするが、多様な変異がある)、クロマメノキ、ヒメツルコケモモ。

これ等の他に、ヒメジャクナゲ、ハナヒリノキ、ツルコケモモ、コメツツジ、イワツツジ等がしばしば高山帯に見られる。

※サクラソウ科……2属5種あり、固有2種を含む。Androsace 属：トチナイソウ (チシマコザクラ。北見ホロヌプリ、キリギシ岳)、Primula 属：△エゾコザクラ (P. cuneifolia Ledeb., 本州では東北地方高山にミチノココザクラ、日本アルプス等にハクサンコザクラの両変種がある)、

◎ユウパリコザクラ (P. yuparensis Takeda, ヨーロッパの P. farinosa L. に近い夕張岳固有種)、○サマニユキワリ (P. modesta Bisset et Moore v. samani-montana Nakai, ユキワリソウの葉の3/4長が細く葉柄状となったアポイ岳及び周辺山岳の固有変種。なお、斜里岳にはこれに似て小形の品種シャリコザクラがある)、◎ヒダカイワザクラ (P. hidakana Miyabe et Kudo, 日高山脈固有種で、亜高山帯以下にも多いが、毛が多く、地下茎を伸ばす形の変種カムイコザクラ v. kamuiana Hara が高山帯に見られる)。

これ等の他に、ツマトリソウが亜高山帯から高山帯にかけて広く見られ、サクラソウモドキが高山帯に見られることもある。

※リンドウ科……4属9種あり、固有種、固有変種各1を含む。Fauria 属：イワイチョウ、Swertia 属：エゾタカネセンブリ、ミヤマアケボノソウ、Gentianella 属：

◎ユウバリリンドウ (G. yuparensis Satake, 大雪山、夕張岳等に産し、羊蹄山や本州の一部の高山には亜種オノエリンドウ ssp. takedai Toyokuniがある)、Gentiana 属：ミヤマリンドウ、△リシリリンドウ (G. jamesii Hemsl., 千島、北朝鮮高山、利尻岳、大雪山、夕張岳)、△ヨコヤマリンドウ (G. glauca Pall., 樺太、千島、シベリア東部からアラスカに分布し、大雪山がわが国唯一の産地)、○クモイリンドウ (G. algida Pall. v. igarashii Miyabe et Kudo, 本州のトウヤクリンドウの変種で、大雪山固有)、エゾオヤマリンドウ (低地のエゾリンドウ

の、花
※ムラ
マムラ
ムラサ
ゾルリ
et Ohw
島のチ
を有す
※ゴマ
属11種
(タル
ロが夕
Veronic
バクワ
クワガ
(V. st
Kitagaw
に分布)
(L. gl
るが、北
わずかに
やゝ狭い
Kitamu
○ホソバ
Rupr. v.
シベリア
プソウに
比
い花糸を
ris属：エ
タカネシ
ナシオガ
部を除く
山のみ)、
zumiana

の、花が茎頂に集った高山形)。

※ムラサキ科……*Eritrichium* 属：ミヤマムラサキ (アポイ岳等には変種 *Ezourlium* ムラサキがある)、*Mertensia* 属：○エゾリソウ (*M. pterocarpa* Tatewaki et Ohwi v. *yezoensis* T. et O., 千島のチシマルリソウの萼片が皮針形で剛毛を有する北海道固有変種)。

※ゴマノハグサ科……固有変種 2 を含む 4 属 11 種あり。*Pentstemon* 属：イワブクロ (タルマイソウ。白花品シロバナイワブクロが夕張岳、大雪山に知られている)、*Veronica* 属：エゾミヤマトラノオ (キクバクワガタ。アポイ岳には狭葉品種アポイクワガタがある)、△エゾヒメクワガタ (*V. stelleri* Pall. v. *longistyla* Kitagawa, 北海道、樺太、千島、北朝鮮に分布)、*Lagotis* 属：ウルップソウ (*L. glauca* Gaertner, 礼文島に産するが、北海道の高山には見られない。花がわずかに青緑色を帯びた白色で、葉の幅がやや狭い○ユウバリソウ v. *takedana* Kitamura が夕張岳固有変種である)、○ホソバウルップソウ (*L. stelleri* Rupr. v. *yesoensis* Miy. et Tatew., シベリアの *L. stelleri* の変種。ウルップソウに比して葉の幅が狭く、雄ずいは長い花糸をもつ。大雪山固有)、*Pedicularis* 属：エゾシオガマ、ヨツバシオガマ、タカネシオガマ、ミヤマシオガマ、△キバナシオガマ (*P. oederi* Vahl, 北米東部を除く周極分布を示す。わが国では大雪山のみ)、△リシリシオガマ (*P. koidzumiana* Tatew. et Ohwi, 葉はキバナ

シオガマの様に羽状裂だが、花は紅紫色。利尻岳、樺太)。

これ等の他に、シオガマギク、テングクワガタ等が時に高山帯に見られる。

※ハマウツボ科……*Boschniakia* 属：オニク。

※タヌキモ科……*Pinguicula* 属：ムシトリスミレ (白花品あり)。

※スイカズラ科……*Linnaea* 属：リンネソウ、*Weigela* 属：ウコンウツギ、*Lonicera* 属：チシマヒョウタンボク (白花品が大雪山に知られている)。

これ等の他に、ケヨノミがしばしば高山帯にも見られる。

※オミナエシ科……*Patrinia* 属：△タカネオミナエシ (*P. sibirica* Juss., チシマキンレイカ。北海道、樺太、千島、シベリア東部に分布)。時にカノコソウ (*Valeriana fauriei* Briq.) が高山帯に見られることもある。

※キキョウ科……2 属 4 種あり。*Adenophora* 属：ハクサンシャジン、モイワシャジン (種としては低地から高山帯まで広く見られるが雨竜白鳥山にはシラトリシャジン、夕張岳にはユウバリシャジンの固有変種がある)、*Campanula* 属：チシマギキョウ、イワギキョウ、ともに白花品あり。

※キク科……固有種 7 種を含む 13 属 21 種がある。*Leontopodium* 属：○オオヒラウスユキソウ (*L. hayachinense* Hara et Kitamura v. *miyabeanum* S. Watanabe, 早池峯山のハヤチネウスユキソウの変種。大平山より記載され、その後キリギシ岳でも見出された。両山とも石灰岩の

山である)。なお、この属には、他にエゾウスユキソウが乳文島、ニペソツ山及び道東の低地に、ウスユキソウが室蘭岳に産する。Anaphalis 属：タカネヤハズハハコ（タカネウスユキソウ。アポイ岳、夕張岳及び道北の蛇紋岩地帯）。この属のヤマハハコは、高山帯かなりの高度にも産する。Erigeron 属：◎ミヤマノギク (E. miyabeanus Tatew. et Kitam., ミヤマアズマギクに似るが、頭状花序は大きく径 3.5 cm、根出葉に著しい鋸歯がある。北見ホロヌブリ等)、ミヤマアズマギク（毛が少く、葉の幅が狭く、花の色がうすい変種アポイアズマギクはアポイ岳の産。変化多く、ユウパリアズマギク、キリギシアズマギク、シロバナミヤアズマギク等の区分をすることあり）、Arnica 属：エゾウサギギク。なお、この属には本州には見られないオオウサギギク（カラフトキングルマ）が浦臼山地に見られる。Senecio 属：△ミヤマオグルマ (S. kawakamii Makino, 北海道、南千島、樺太に分布)、Artemisia 属：○エゾハハコヨモギ (A. trifurcata Steph. v. pedunculosa Kitam., 千島～カムチャッカのナガエハハコヨモギの頭状花がやゝ大きく小花数の多い大雪山固有変種)、サマニヨモギ（白毛の多い品種シロサマニヨモギあり）、Cirsium 属：○ミヤマサワアザミ (C. Pectinellum A. Gray v. alpinum Koidz., エゾノサワアザミの高山形。大雪山)、◎アポイアザミ (C. apoiense Nakai, エゾノサワアザミに似るが、総苞外片が短い。アポイ岳)、Saussurea 属：◎ユキバヒゴ

タイ (S. chionophylla Takeda, 超塩基性岩特生植物で、夕張岳、チロロ岳、トツタベツ岳に産し、夕張・日高両山脈固有種。白花品あり)、ナガバキタアザミ（変異多く、大形のダイセツヒゴタイ、根出葉が残存するヒダカトウヒレンなどの品種一変種や亜種とする意見もある一が区別される）、◎ウスユキトウヒレン (S. yanagisawae Takeda, 綿毛とクモ毛の状態、葉の形、大きさ等変化多く、ユキバトウヒレン、タカネキタアザミ、ユキバタカネキタアザミ、オオタカネキタアザミ、ホソバヒゴダイ等の区分が葉の形、大きさ等変化多く、ユキバトウヒレン、タカネキタアザミ、ユキバタカネキタアザミ、オオタカネキタアザミ、ホソバエゾヒゴタイある)、Hypochoeris 属：◎エゾコウゾリナ (H. crepididioides Tatew. et Kitam., 本属唯一の日本自生種。アポイ岳固有種)、Picris 属：カンチコウゾリナ、Crepis 属：△フタマタタンポポ (C. hokkaidoensis Babcock, 北海道、南千島、樺太)、◎エゾタカネニガナ (C. gymnopus Koidz., アポイ岳、夕張岳等の超塩基性岩地帯の固有種)、Ixeris 属：タカネニガナ（クモマニガナ）、Taraxacum 属：△オダサムタンポポ (T. platycedidum Diels, エゾフジタンポポ。羊蹄山、大平山等に産し、樺太、朝鮮、中国東北部に分布)、◎タカネタンポポ (T. yuparense H. Koidz., ユウバリタンポポ。夕張岳、日高山脈等)、△クモマタンポポ (T. trigonolobum Dahlst., 千島よりカムチャッカを経てアラスカまで分布し、大雪山に産する)。この属

では小
ポイ岳
チアカ
ミタン
(芦別
ニペソ
されて
これ
ミソウ

被子植
※ミク
ウキミ
x.)、
eum L.
周極分
※イネ科
ある。P
Agrost
inii T
からアラ
コミヤマ
シマガリ
etum 属
属：ヒロ
やゝ大き
○ユウバ
auv. v.
ネコメス
チャッカ
山に産す
マハルガ
ミヤマコ
uriflora

では小泉秀雄氏によりアポイタンポポ（アポイ岳）、ノゲタンポポ（神威岳）、カンチアカミタンポポ（富良野岳）、ヤマアカミタンポポ（佐幌岳）、コミヤマタンポポ（芦別岳）、アシベツタンポポ（芦別岳）、ニベソツタンポポ（ニベソツ山）等が記録されているが、明らかではない。

これ等の他に、Scorzonera属でフタナミソウが礼文島に産する。

被子植物門単子葉植物綱

※ミクリ科……Sparganium属：△ホソバウキミクリ（*S. angustifolium* Michx.）、△チシマミクリ（*S. hyperboreum* Laest., タカネミクリ）。両種とも周極分布種で大雪山と夕張岳に産する。

※イネ科……固有種2種を含む11属15種がある。Phleum属：ミヤマアワガエリ、Agrostis属：△チシマヌカボ（*A. trinii* Turcz., クロヌカボ。シベリア東部からアラスカまで分布。トツタベツ岳）、コミヤマヌカボ、Calamagrostis属：チシマガリヤス、ミヤマノガリヤス、Trisetum属：リシリカニツリ、Deschampsia属：ヒロハコメススキ（夕張岳には小穂がやゝ大きく花序が少したれ下がる固有変種○ユウバリカニツリ *D. caespitosa* Beauv. v. *levis* Ohwi がある）、△タカネコメススキ（ユキワリガヤ。千島～カムチャッカ～アリューシャンに分布し、大雪山に産する）、Anthoxanthum属：ミヤマハルガヤ（利尻岳）、Hielochloe属：ミヤマコウボウ、◎エゾコウボウ（*H. pluriflora* Koidz., 夕張岳。小花の「のげ」

はほとんど無い。短いのげのある変種エゾヤマコウボウ v. *intermedia* Ohwi が数か所から記録されている）、Elymus属：◎タカネエゾムギ（*E. yubaridakensis* Ohwi, のげが3cmに及び、やゝねじれて「く」の字形に外曲する。夕張岳固有種）、Festuca属：ミヤマウシノケグサ、Poa属：ナンブソモソモ（*P. hayachinensis* Koidz., 葉舌が平滑な○エゾミヤマソモソモ v. *yezo-alpina* Tatew. et Kawano は大雪山固有変種である）。

これ等の他に、ミヤマヌカボ、ヒメノガリヤス、イワノガリヤス、コメススキ、ミヤマドジョウツナギ、アイヌソモソモ等が見られ、また、チシマザサは低地から高山帯にかけて広く分布し、亜高山帯より上部では極めてふつうである。

※カヤツリグサ科……5属27種があり、スゲ属（*Carex*）が22種を占める。固有種はアポイタヌキラン1種のみ。Scirpus属：ミネハリイ、タカネクロスゲ、Eriophorum属：○エゾワタスゲ（*E. scheuchzeri* Hoppe v. *tenuifolium* Ohwi, 大雪山固有変種）、Kobresia属：ヒゲハリスゲ、Carex属：△ヤリスゲ（*C. kavanovii* v. *Krecz.*, 大雪山。樺太に分布）、タカネヤガミスゲ、ハクサンスゲ、ヒメカワズスゲ、△ヒメアゼスゲ（コアゼスゲ。アジア東北部に分布）、キンチャクスゲ（イワキスゲ）、ミヤマクロスゲ、△リシリスゲ（樺太、千島、カムチャッカに分布）、△カラフトイワスゲ（*C. rupestris* Bell, 周極分布

種。キリギシ岳がわが国唯一の産地)、キンスゲ、イトキンスゲ、△タイセツイワスゲ (*C. stenantha* Fr. et Sav. v. *taisetsuensis* Akiyama, 本州の基準種イワスゲに比して果胞の幅が広く先端は短いくちばしとなる変種で、千島、樺太に分布する)、△ミヤケスゲ (*C. subumbellata* Meinsh., 夕張岳。樺太に分布。本州には地下茎が短く、最下苞の長い変種クモマシバスゲがある)、△タカネヒメスゲ (*C. melanocarpa* Cham., 夕張岳。樺太からシベリア東部に分布)、ヤチスゲ、△ムセンスゲ (*C. livida* Willd., 大雪山。周極分布)、サヤスゲ(ケヤリスゲ)、タカネシバスゲ、オノエスゲ、タカネハリスゲ、ヌイオスゲ、◎アポイタヌキラン (*C. apoiensis* Akiyama, アポイ岳固有種)、*Rhynchospora*属: ミヤマイヌノハナヒゲ。

これ等の他に、ワタスゲ、ハガクレスゲ、ミタケスゲ、カワズスゲ、ミカズキグサ等が低地より高山帯にかけての湿原にしばしば見られる。

※イグサ科……2属10種があるが固有種はない。*Luzula*属: クモマスズメノヒエ、ミヤマヌカボシソウ、タカネスズメノヒエ、*Juncus*属: ミヤマイ(タテヤマイ)、エゾホソイ、タカネイ、エゾイトイ、ミヤマホソコウガイゼキシヨウ、エゾノミクリゼキシヨウ(北太平洋要素で、大雪山及び本州焼石岳に知られる)、△クロコウガイゼキシヨウ (*J. triceps* Rostk., 大雪山。朝鮮、千島、シベリア東部に分布)。

※ユリ科……固有種1種を含む7属9種が

ある。*Tofieldia*属: チシマゼキシヨウ (*T. coccinea* Richards., 変異が多く、花被片が赤褐色、果実が黒褐色のものを変種クロミゼキシヨウ v. *fusca* Haraと称し、夕張岳から記載されたが、その後所々で見出され、利尻岳のリシリゼキシヨウもこの変種に含まれるとされ、全体細形でやや丈が高く、花序がまばらで花被片が白色のものを変種アポイゼキシヨウ v. *kondoi* Haraと称し、アポイ岳から記載されたが、後に恵庭岳のエニワゼキシヨウや本州のチャボゼキシヨウもこの変種に含まれるとされる)、ヒメイワショウブ、*Zygadenus*属: △リシリソウ (*Z. sibiricus* A. Gray, 北朝鮮からシベリア東部にかけて分布。利尻岳)、*Hosta*属: ◎クロバナギボウシ (*H. atropurpurea* Nakai, ヤチギボウシ。低地のタチギボウシ *H. rectifolia* Nakaiは、本州から南千島、樺太、沿海州に分布し、葉は緑色で花は紫色であるのに対し、クロバナギボウシは葉が粉白を帯び花が黒紫色の北海道固有種であるとされるが、両者を同一種と見る見解もある)、*Veratrum*属: コバイケイソウ、*Allium*属: ミヤマラッキョウ、シロウマアサツキ (*A. schoenoprasum* L., 小形で、雄ずいが花被片よりやや短いものを変種○ヒメエゾネギ v. *yezomonticola* - Haraと称し、アポイ岳周辺の産)、*Lloydia*属: チシマアマナ、*Fritillaria*属: ミヤマクロユリ(クロユリの低地のもものは3倍体で不稔、高山のものは2倍体で種子を生じ、変種または亜種としてミヤマクロユリと称される)。これ等の他に、マ

イヅルツバカマ、しば高山 ※ラン科 *chis* 属 斑点をも ある)、シロウマ *dl.*, ユ 北米にか 雪山に産 り、ホソ ン、ホザ 山帯に見 以上、 科ごとに ダ植物5 植物36科 科116種 単子葉植 ぞれの科 かに、亜 られ、高 タバミ科 ン科のガ デ、オガ ソウ、ウ ヤメ等一 と、北海 種を越す 3. 北海 2.にあ 整理する A. アジ

イヅルソウ、エゾカンゾウ、ショウジョウバカマ、クルマユリ、シュロソウ等がしばしば高山帯に見られる。

※ラン科……2属3種、固有種なし。Orchis 属：ハクサンチドリ（葉に暗紫色の斑点をもつ品種ウズラバハクサンチドリもある）、Platanthera 属：タカネトンボ、シロウマチドリ（*P. hyperborea* Lindl.、ユウバリチドリ。アジア東北部より北米にかけて分布。北海道では夕張岳と大雪山に産する）。これ等の他に、キソチドリ、ホソバノキソチドリ、ミヤマフタバラン、ホザキイチョウランなどもしばしば高山帯に見られる。

以上、本来高山性と考えられる 276 種を科ごとに紹介したが、種数のまとめは、シダ植物 5 科 12 種、裸子植物 2 科 3 種、種子植物 36 科 261 種（双子葉植物離弁花類 17 科 116 種、双子葉植物合弁花類 13 科 80 種、単子葉植物 6 科 65 種）である。なお、それぞれの科あるいは属ごとに補記した種のほか、亜高山帯ないし低地にもふつうに見られ、高山帯にも産するもの—たとえばカタバミ科のコミヤマカタバミ、ガンコウラン科のガンコウラン、カエデ科のミネカエデ、オガラバナ、シソ科のイブキジャコウソウ、ウツボグサ、アヤメ科のヒオウギアヤメ等—が相当数あり、それ等を合わせると、北海道の高山帯自生植物の種数は 450 種を越すこととなる。

3. 北海道産高山植物の分布

2. にあげた 276 種について、分布域別に整理すると、およそ次の様になる。

A. アジアに分布するもの（日本固有種も

含まれる）…………… 150 種（54.3%）

A のうちで日本固有種は 76 種（27.5%）であり、さらにそのうち 44 種（15.9%）が北海道固有種である。

※北海道固有種：エゾマメヤナギ、ミヤマチヤナギ、オオミヤマチヤナギ、エゾイワツメクサ、タイセツトリカブト、ジンヨウキスミレ（以上大雪山固有種）；エゾノクモマダサ、ユウバリクモマダサ、シソバキスミレ、ユウバリコザクラ、タカネエゾムギ（以上夕張岳固有種）；アポイカンバ、ヒダカソウ、アポイアザミ、エゾコウゾリナ、アポイタヌキラン（以上アポイ岳固有種）；ヒダカミネヤナギ、カムイヒランジ、ヒダカトリカブト、ヒダカゲンゲ、ヒダカミヤマノエンドウ、ヒダカイワザクラ（以上日高山脈固有種）；マルバヤナギ、エゾホソバトリカブト（ユウバリウズ）、ボタンザキキンバイソウ（ボタンキンバイ）、エゾオオケマン、リシリヒナゲシ、タカネゲンバイ、シリベシナズナ、カリバオウギ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲ、ミヤマハンモドキ、シラトリオトギリ、マシケオトギリ、シレトコスミレ、ホソバトウキ、ミヤマノギク、ユキバヒゴタイ、ウスユキトウヒレン、エゾタカネニガナ、タカネタンポポ（ユウバリタンポポ）、エゾコウボウ、クロバナギボウシ（ヤチギボウシ）。

※本州にも分布するもの（日本固有種）：オヤマソバ、カトウハコベ、オオイワツメクサ（*イワツメクサ）、ツクモグサ、ミヤマタネツケバナ、ナンブイヌナズナ、ホソバイワベンケイ（アオノイワベンケイ）、アラシグサ、ハゴロモグサ、ウラジロナナ

カマド、エゾオヤマノエンドウ (*オヤマノエンドウ)、フラノオトギリ (*オトギリソウ)、エゾキスミレ (*オオバキスミレ)、シロウマアカバナ、エゾサイコ、ミヤマゼンコ、ハクサンボウフウ、コイワカガミ、ミヤマホツツジ、ナガバツガザクラ (*ツガザクラ)、アカモノ (イワハゼ)、サマニユキワリ (*ユキワリソウ)、ユウバリリンドウ、ミヤマリンドウ、ミヤマシオガマ、オオヒラウスユキソウ (*ハヤチネウスユキソウ)、タカネヤハズハハコ (タカネウスユキソウ)、ナンブソモソモ、ミヤマイヌノハナヒゲ、ミヤマヌカボシソウ、ヒメイワショウブ、コバイケイソウ。32種。()内*印は、北海道にはその変種か亜種を産することを示す。たとえば、ナガバツガザクラは、種はツガザクラで、その変種が北海道に産するものである。

※日本・樺太・千島の固有植物 22 種。

エゾミヤマヤナギ、ミネヤナギ、ウラジロタデ、リシリブシ (カラフトブシ)、ハクセンナズナ、メアカンフスマ、メアカンキンバイ、エゾモメンヅル、アシボソアカバナ、ミヤマセンキュウ、ミヤマムラサキ、エゾルリソウ (*チシマルリソウ)、エゾシオガマ、リシリシオガマ、エゾミヤマトラノオ (*キクバクワガタ)、ミヤマオグルマ、フタマタタンポポ、タイセツイワスゲ (*イワスゲ)、ミヤケスゲ (クモマシバスゲ)。

※アジア大陸東北部に分布するもの 52 種。

ハイマツ、ミヤマビャクシン、ヒメイワタデ、シコタンハコベ、スガワラビランジ、ミヤマオダマキ、チシマノキンバイソウ、

コマクサ、リシリナズナ (*オクエゾスズナ、チシマイワブキ、クモマユキノシタ、チシマクモマグサ、ミヤマキンバイ、エゾトウウチソウ (*カライトソウ)、チシマワレモコウ、タカネナナカマド、イワオオギ、タイツリオオギ、ハイオトギリ、タカネスミレ、チシマニンジン、ミヤマウイキョウ、エゾイチヤクソウ、チシマツガザクラ、エゾタカネセンブリ (*チシマセンブリ)、リシリリンドウ、エゾオヤマリンドウ、ウルップソウ (ユウバリソウを含む)、ホソバウルップソウ、ウコンウツギ、チシマヒョウタンボク、タカネオミナエシ (チシマキンレイカ)、ハクサンシャジン (*ツリガネニンジン)、モイワシャジン、ミヤマアズマギク、ナガバキタアザミ、タカネニガナ、オダサムタンポポ、ミヤマノガリヤス、タカネクロスゲ、ヒメアゼスゲ、ミヤマクロスゲ、リシリスゲ、タカネヒメスゲ、オノエスゲ、ヌイオスゲ、タカネズメノヒエ、エゾイトイ、ミヤマホソコウガイゼキショウ、クロコウガイゼキショウ、リシリソウ、ミヤマラッキョウ。

B. アジア大陸から北米にかけて分布するもの…………… 32 種 (11.6%)

タカネヒカゲノカズラ、ミヤマハンノキ、エゾミヤマツメクサ、ヤマガラシ、ミヤマハタザオ、シコタンソウ、マルバシモツケ、ミヤマダイコンソウ、タカネトウウチソウ、ムラサキモメンヅル、チシマフウロ、タニマスマシレ、ジムカデ、クロウスゴ、エゾコザクラ、イワイチョウ、ヨコヤマリンドウ、クモイリンドウ (*トウヤクリンドウ)、エゾタカネ、エゾヒメクワガタ、オニク、チシマギキョウ

ウ、イワ
ナガエハ
シマヌカ
ゲ (イワ
エゾノミ
ウ、ミヤ
ウマチド
C. カム
スカ等
るもの
チング
ツジ、ア
ラ、イワ
ヨツバシ
ポポ、ミ
トンポ。
D. アジ
るもの
エゾノヒ
タカネシ
メクサ)、
カンチコ
E. 北半球
布する
も分布す
チシマヒ
ケスギラン
ワラビ、オ
トガクシテ
リビャクシ
シギシ)、
オ (コモチ
ハクサンイ

エゾスズノシタ、イ、エゾチシマイワオオリ、タカマウキツガザクマセンブマリンドを含む)、ギ、チシエシ(チジン(*チジン、ミジミ、タカヤマノガゼスゲ、カネヒメタカネスアホソコウゼキショウ、分布する(11.6%)マハンノキ、ン、ミヤマバシモツケ、ウウチソウ、ウロ、タニゴ、エゾコマリンドウ、ンドウ)、シマギキョ

ウ、イワギキョウ、エゾハハコヨモギ(*ナガエハハコヨモギ)、サマニヨモギ、チシマヌカボ(クロヌカボ)、キンチャクスゲ(イワクスゲ)、クモマスズメノヒエ、エゾノミクリゼキショウ、チシマゼキショウ、ミヤマクロユリ(*クロユリ)、シロウマチドリ(ユウバリチドリ)。

C. カムチャッカ~アリューシャン~アラスカ等の太平洋北部縁辺部を分布域とするもの(北太平洋要素)…14種(5.1%)
チングルマ、キバナシャクナゲ、エゾツツジ、アオノツガザクラ、コメバツガザクラ、イワヒゲ、シラタマノキ、イワブクロ、ヨツバシオガマ、ウサギギク、クモマタンポポ、ミヤマイ、ハクサンチドリ、タカネトンボ。

D. アジアからヨーロッパにかけて分布するもの(ユーラシア要素)…7種(2.5%)
エゾノヒメクラマゴケ、リシリシノブ、タカネスイバ、コバノツメクサ(ホソバツメクサ)、タカネナデシコ、リシリオオギ、カンチコウゾリナ。

E. 北半球の亜寒帯・寒帯・高山に広く分布する(周極分布)もの、及び南半球にも分布するもの……………73種(26.4%)
チシマヒカゲノカズラ、コスギラン、コケスギラン、ミヤマハナワラビ、ヒメハナワラビ、オクヤマワラビ、イワウサギシダ、トガクシデンダ、ミヤマイワデンダ、リシリビャクシン、ジンヨウスイバ(マルバギシギシ)、イブキトラノオ、ムカゴトラノオ(コモチトラノオ)、チシマツメクサ、エゾタカネツメクサ、カンチヤチハコベ、ハクサンイチゲ、ミヤマキンポウゲ、イワ

ベンケイ、コウメバチソウ(*ウメバチソウ)、アポイヤマブキショウマ(*ヤマブキショウマ)、ウラジロキンバイ、キンロバイ、タテヤマキンバイ、チョウノスケソウ、オオタカネイバラ、カラフトゲンゲ、キバナノコマノツメ、ミヤマアカバナ、ホソバアカバナ、レブンサイコ、イワウメ、ヒメイツツツジ(*イツツツジ)、エゾツガザクラ、ミネズオウ、ウラシマツツジ、コケモモ、クロマメノキ、ヒメツルコケモモ、トチナイソウ(チシマコザクラ)、ミヤマアケボノソウ、タカネシオガマ、キバナシオガマ、ムシトリスミレ、リンネソウ、ホソバウキミクリ、チシマミクリ、ミヤマアワガエリ、コミヤマヌカボ、チシマガリヤス、リシリカニツリ、ヒロハコメススキ、タカネコメススキ(ユキワリガヤ)、ミヤマハルガヤ、ミヤマコウボウ、ミヤマウシノケグサ(*ウシノケグサ)、ミネハリイ、エゾワタスゲ、ヒゲハリスゲ、タカネヤガミスゲ、ハクサンスゲ、ヒメカワズスゲ、カラフトイワスゲ、キンスゲ、ヤチスゲ、ムセンスゲ、サヤスゲ、タカネシバスゲ、タカネハリスゲ、エゾホソイ、タカネイ、ヒメエゾネギ(*シロウマアサツキ)、チシマアマナ。

以上の整理から、北海道産高山植物276種のうちでAの「アジア要素」と呼ばれる分布形のもものが150種(54.3%)で最も多く、そのうち約半数の76種(北海道固有種44種を含む)が日本固有種である。続いてEの「周極要素」及び「普遍要素」が73種(26.4%)を占め、氷期遺存植物の影

響の濃さを示す。カムチャッカ・ベーリング・アリューシャンを経て北米とのつながりを示すCの「北太平洋要素」14種(5.1%)と周極分布からアジア西部とヨーロッパを除いた形のBの「アジア～北米要素」の32種(11.6%)は、マンモスの時代あたりのアジアと北米のつながりの中に北海道が位置したことを物語る。最もつながりの少ないものがDの「ユーラシア要素」の7種(2.5%)であるが、これは、単に数字が小さいからヨーロッパとの共通性が少ないというので済まない問題を含んでいる。

昭和53年に発表されたリストに3種の訂正を加えた上で昭和55年、北海道高山植物の区系植物地理のまとめを豊国博士が発表された。

豊国博士は、この論文で、人為的に高山帯に持ちこまれたものや、偶然に高山帯に見られたもの等を除く北海道の高山帯自生植物計457種を、(1)アジア要素245種(53.6%)、(2)アジア～北太平洋要素22種(4.8%)、(3)アジア～北米要素47種(15.1%)、(4)ユーラシア要素20種(4.4%)、(5)周極・普辺要素123種(26.9%)に分類し、区系の由来を論じて居られる。

個々の植物や地域の分布にかかわる話題や隔離分布について等、分布に関する問題は多いが、それらについては他の機会にゆずることとする。

(道立有朋高校・理学博士)